



認定特定非営利活動法人

RASA-Japan ニュースレター

理事長 藤井典夫

〒468-0014 名古屋市天白区中平2-2627

Tel/Fax 052-803-1649 <http://rasa-japan.com>

e-mail info@rasa-japan.com

郵便振替 口座番号 0080-4-31185 受取人 特定非営利活動法人RASA-Japan

2018.7
Vol.28

2019年2月の学校建設地が決まりました

6月12日、13日の二日間、藤井理事長が現地出張、来年2月の学校建設の概要を決定してまいりました。建設地については、今年の学校建設中にシーランド名誉理事長と、理事長が現地訪問をして2か所の候補地を視察済です。

- ◆ 建設地はサン・アントニオ・アバド小学校(ブラカン州パンディー)に平屋建て3教室。
- ◆ 今回出張した目的は、すでに始まっている次期建設地への派遣ボランティア学生への「正確な情報収集と提供」のためでした。
- ◆ 第1日目はパンディー市及び教育省など行政との検討会でした。(前半市長出席、教育省副市長は終日出席)昨年、RASA が直面した建設工事の問題点、困った点、反省点の改善を含め、行政が担当する項目の検討会を持ちました。主な討議内容は以下のとおり。
 - ① 建設予定地の敷地図と登記簿の確認(後日謄本の提出)
 - ② 井戸掘削による建設工事用水の確保(水事情が悪い地域)・・・一日おきの水利用しかできない。
 - ③ ボランティア学生の治安確保(万全を期すための方策)・・・ホストファミリー居住地の行政区指導
 - ④ その他ホームステイ地の行政側の指導と連携

第2日目はボランティアを受け入れる「学校」「地域」「PTA」などとの協議を行いました。

ボランティアが安全快適に活動できるかは毎日過ごすホストファミリーと学校の対応にかかっています。

- ① 休憩時の場所確保とミネラル・ウォーターの常設、特に女子学生用のトイレの確保
- ② 全体活動日程の提示(行楽を含め)
- ③ ホストファミリーの役割とボランティア受け入れ条件(専用個室の確保、食事の対応、衛生条件など)
- ④ 建設作業以外で「日本語教室」のボランティア学生による子供たちへの授業の許可と進め方



写真説明

＜建設予定のサン・アントニオ小学校にて＞

ボランティア派遣予定地でRASAの依頼事項に取り組んでくださる方たちとの記念撮影です。地元集落の代表者やPTAの代表者、学校関係者、教育省担当者の皆さん。



救いたい...

「在日外人の役にも立ちたい」と人材派遣会社勤務

昨年のボランティア学生 杉浦万寿美

現在、発展途上国は毎年1,500億ドル(約17兆円)を兵器に費やしております。その一方で、国連安全保障理事国の5つの常任理事国が、全世界の兵器の90%を売っております。貧困は人間(権力者)の身勝手な欲望によって成り立っていると私は思っております。だから、人間が解決すべき問題なのです。

RASAの活動に参加し、実際に貧困を目の当たりにして一番に感じたことは『この人たちを救いたい。この人たちの笑顔を守りたい』という強い思いでした。そのために私は、就職活動を始めました。現在社会人1年目、自分がまだまだ未熟すぎて心が折れそうになることは山ほどあります。ですが、『発展途上国の人たちを救う』という夢が、自分自身を強くしております。

学生時代にRASAの活動に2度も参加させていただけたことは、今の私にとって最良の出来事でした。28日間のフィリピンでの経験は、今でも私の中で生きています。

活動報告

学生ボランティア バーベキュー大会

天白公園・2018年5月

昨年5月連休に学生の提案で行ったバーベキュー大会を、今年もやろうと、天白公園で実施。前日夜から場所取りや準備。好天に恵まれ、緑豊かな自然を満喫しながら、舌鼓。今年と、昨年のボランティアも聞きつけ、なんと40名も参加。その後、かねてより提案があった、同窓会の発足が具体化し、第1回の準備会が、その日に動き出しました。RASAのOBは、延べ650名を超え、大学、学部学年を超え、社会に出ても繋がっています。



学生ボランティア体験発表会

6月10日

カトリック平針教会

RASA-Japanでは、毎年6月にカトリック平針教会で参加学生に依る現地(フィリピン)学校建設の体験報告を実施しております。今年のボランティア参加学生は48名に上る多人数でしたが、その内5名が体験報告しました。

「通常の学生生活では得られない貴重な体験です」と自信に満ちた言葉で説明し、顔は輝いていました。30人程集まった教会の支援者から活発なご意見や質疑応答もありました。

その一つに、「大変素晴らしい体験をされたので是非その経験を生かして、これからの人生に立ち向かって欲しい」との力強い応援がありました。

また、「今回体験中で困った事がありましたか?」との質問に 一人の学生は、「蚊や大きなゴキブリが沢山いたので最初は眠れないと思いましたが、何日かすると肉体労働の疲れから直ぐ眠れる様になりました」と。

最後のお別れの時になると「いつでも良いのでここへ帰ってきておくれ」と泣いて体を抱いてくれたそうです。「フィリピンの家庭の温かさをつくづく感じた一場面でした。」との感想でした。

司会の藤井理事長

「学生を7班に分けて工夫を凝らした日本語授業を行いました。生徒は目輝かせて勉強し、日本語での挨拶と名前をカタカナで書ける様になりました。その授業の後には、学校建設の為にセメント運びや砂ふるい等ボランティアにとっては汗まみれになって肉体労働をしました」との解説がありました。

今回参加した学生達が感動した体験を通じ、貧しさの中に本当の豊かさと心が結び合う愛情を感じて皆で一緒に喜び心を大切に持ち続けて欲しいものです。

(文責 山本理事)

中日新聞 2018年(平成30年)6月15日(金曜日)

炎天下 学校建設や日本語授業

比支援の学生日進で発表

フィリピンで教育や貧困層の支援に取り組む認定NPO法人「RASA Japan」(名古屋市中区)の学校建設事業などに派遣された大学生たちが、日進市赤池町のカトリック平針教会で、ボランティア体験を発表した。

(田中浩一郎)

RASAは一九八一年からタイで支援活動をしている。一九九九年からフィリピンで学校の建設活動を始め、貧困層を対象に、給食や生活支援などもしている。

二月に約二週間、南山大と岡山女学院大、名古屋市立大の学生計四十八人を、フィリピン北部ルソン島の中部に位置するブラカン州に派遣した。

学生たちは現地の家庭にホームステイし、小学校の建設現場で作業を手伝った。鉄骨のベンキ架りをしたり、コンクリートを作るために、砂をふるいにかけたりするなど、現地の作業員を補助した。小学生を対象に、日本語の授業も行った。

同教会の会員二十五人前に、学生五人が体験談を発表。連日気温三〇度を超える炎天下で作業に励んだことや、日本語授業で、子どもたちとコミュニケーションを取りながら交流したことなどを話した。

南山大三年、島中竜之介さん(三〇)は「北名古屋市は『授業を通して、いろいろな境遇の子どもたちがいて、一人一人の特徴をしっかりとらえないといけない』と思った。将来は子どもたちの教育支援を行いたいと考え、きつかけになった」と充実した表情で振り返った。

藤井典夫理事長(七〇)は「日本とはまた違う環境に身を置いて、社会貢献を体験すること、学生たちにとっては貴重なこと」と話した。

報告会の模様は中日新聞(6月15日)に掲載されました。

栄養障害児給食支援事業 スタディ ツアー

時： 2018年9月2日（日）から9日（日）8日間 定員 15名

活動場所：フィリピン、ラグナ州、カブヤオ市 ニュウガン サウスビル 第一小学校

活動：5年生50人、6年生50人合計100名の栄養失調児童の給食活動。調理、配食、後片付けなど。
給食活動のほか、日本語の授業、買い物、博物館見学等もあります。

滞在先：学校の周辺の家庭に ボランティア人が一家庭にホームステイ

参加費：125,000円 すべての費用を含む。ツアー滞在中一切負担ありません。

6月18日 お申込みは定員に達し締め切りしました。ありがとうございました。

5月9日～12日 藤井忠子理事出張報告 下記 1)、2)の目的で出張しました

1) 2018のフィーディングプログラムの契約

責任者Aida校長が退職に際し、OIC（事務責任者）Jeanを紹介。一緒にカブヤオ市教育省を訪問、管理者からRASAの給食の児童への体位と学力向上の貢献に対し、昨年末の表彰杯をいただき、事業支援の継続を頼まれる。当校の実務担当のJoyce、Rose 両先生の3年間の経験、誠実さはAida校長の指導なくとも、うまくいくと願う。日本とのやり取りは正確迅速にしてくれるはず。予算は昨年度とほぼ同額、270万円と補修費や備品購入費です。老朽備品は新たに予算を組む。給食場所を点検後傷んだ場所の補修費の要請があり、準備が必要。RASAの支援は原則給食資金と確認はした。

◆児童数 2018/5月現在 151クラス（幼稚園が33組990名）児童総数 5880名が在籍。朝食なしで通学してくる1500名に、学校が州政府資金と学校売店利益から、約500人を食事始めた。RASAは5年6年生は午前午後と授業がある。他の学年は午前か午後の半日だけで、昼食が必要なことからRASAの支援対象になっている。◆スタディツアーで歯磨き指導と食育も計画している。

2) スタディツアー（2018年 9/2～9）の準備

出張中は治安の問題からマニラのホテルから毎日学校までタクシーで通っていたが、今回学校通じて事前にホスト宅に宿泊の依頼をしたら、滞在を受け入れてもらった。更に到着から帰国まで自家用車で移動の協力も得られた。宿泊中は丁度ホストの親戚や近所の人約30人幼時から年寄りまでが集う誕生会が催された。現地滞在中、人々の笑顔の中に、温かさや信頼安心がみられ、幸せそうな人々でした。

猛暑の中、ホストファミリー宅15件Jを訪問。先生の案内で、ボランティアの個室確保や家族状況確認できた。学校にボランティアの給食活動、日本語授業等の協力を得られた。



前任者Aida校長から最後の引継ぎ



近所の子どもたちが兄弟姉妹のように集って食事を楽しむ

給食受給児童からRASAへの手紙

RASA こんにちは

私の名前はLyka Mae Alcantara 13歳です。私の誕生日は2005年1月15日です。実母は亡くなりました。父はMakatiで働いています。彼は毎日朝3時に家を出て、夕方5時に家に帰ってきます。

時々私はお腹が空っぽのまま学校に行きます。というのはお父さんが家に食べ物を準備しないで出かけるからです。しかし私は毎日学校で、RASAのフィーディングプログラムの無料の食事を食べられるので、幸運です。

私たちの家族は子供10人を扶養しています。私の両親は以前2人が一緒に暮らすまでは、別々の家族でした。父には2人の息子がおり、母は5人の子供がいました。それから一緒に暮らして、3人の子供ができました。私たちは今アパートに暮らしていますが、毎週その支払いのため1500ペソ必要です。時々家賃を払えません。なぜならお金がないからです。

私は自分の勉強を早く終えたいのです。私は両親を経済的に助けたいので一生懸命努力するつもりです。

私の夢は、警察官になることです。加えて、もう一つ、私は小さなサリサリストアを持ちたいのです。そうすれば家族の必要な資金を得られ、将来、支えることができるからです。

サウスビル小学校を援助してくださって、ありがとう。どうぞ、支援を続けてください。重ねて ありがとう。

RASAの関係する皆様にとっていい日でありますように。

第9回定時総会を終えて

理事長 藤井 典夫

私達RASA-Japanの活動は、定款で定められている「事業」に基づき活動することを基本としています。当然ですが昨年の社員総会で承認されました平成29年度の活動計画にも沿って活動してまいりました。

具体的な活動目標をフィリピンの貧弱な教育施設や数として絶対的な教室の不足分を少しでも改善して子供たちの読み書き計算力の向上に協力してきました。その狙うところは貧困の負の連鎖の中の子供たちを、読み書き計算ができる子供へと導き、一人でも多くの人たちの生活が安定するような就職就業を助け、負の連鎖からの脱出を助けたい一心です。

学校建設事業

今年は1999年に最初の学校を建設して以来、20年の節目を迎えました。毎年欠かさず皆様の支援で活動してまいりました。建設した学校数28校、生活支援棟3棟を含めてフィリピンの教育貧困地区に学校をプレゼントしてまいりました。今年の建設地は、「都会に出れば何とかなるだろう」と憧れの生活を求めて地方や離れ島などから都会に出てきた人たちが、仕事もなく結果としてどうにもならなかったのです。彼らはマニラやその周辺の他人の土地に不法に暮らす、スクオッターとなってしまったのです。政府はインフラ整備や都市計画に彼らの住むところが邪魔になり、移住させる目的でおびたしい連棟の長屋を建設しました。移住させた人たちが暮らすところに学校も建設しましたが3階建て15室のビル1棟のみ。そこでは午前と午後の2部授業で教室不足に対応しています。子供の数は幼稚園から6年生までの児童数が2,300名と聞きました。

職員室も教室として使用しているため、廊下が職員室です。物置も中の物は校舎の外に積み上げ教室として使っています。今回、私たちが4教室とトイレ棟（女子用6 男子用6）を追加してプレゼントしたことは大きな貢献事業となったのです。

栄養障害児への給食支援事業

マニラの南約60キロのラグナ州カブヤオ市「サウスビルワン小学校」は5,800名の児童を抱える超マンモス校です。このうち約1,500名の児童は一日一食の食事すら満足に食べられない子供たち。抱き上げると5年生に男の子ですがびっくりでした。普段は決められた制服で目立たないが日本では大きめの赤ちゃんを抱き上げている錯覚でした。

学校の敷地は教室が目一杯建てられておりこれ以上の給食場所の確保が不可能です。

50名の子供たちの給食を2回、合わせて100名が限度です。栄養障害児1,500名の中から優先的に選ばれた子供100名にRASAは特に栄養面に配慮した給食をしています。窓の外には給食対象者から漏れた沢山の子供たちが覗いています。教育省から2回の表彰状を頂きました。体力の改善と模範的な献立が評価されたのです。

この給食の費用は、東京町田市の「手を貸す運動Ⅱ」の寄附金を充当させていただいております。

ボランティア派遣事業

日本の大学生の「国際体験の場」「奉仕活動体験の場」として学生が社会に出たとき、学生生活の間しかできない体験の場を「建設活動と給食事業」を利用して、ホームステイを利用した異文化体験を行っています。

今年は、建設活動に3つの大学から48名、給食活動に5大学13名が参加しました。

一人一家庭のホームステイは日本での家庭生活、家族のあり方を家族の一員として体験し、人生観を見直す貴重な経験を学生にさせたことは有意義な事でありました。

日本では、子供の貧困が問題になっています。6人に1人が貧困だとマスコミは報じています。日本とフィリピンの子供の貧困の大きな違いは「フィリピンの子供の貧困は社会が作り出している貧困」「日本の子供の貧困は家庭や親が原因の貧困」のような気がしてなりません。すべてではないでしょうが・・・

ボランティアとしてRASAのプログラムに参加した学生は、心から喜んでくれています。後輩たちに参加を強く働きかけています。ボランティア体験をした彼らが歩む人生は、豊かで有意義そのものであると確信してやみません。引き続きご支援とご協力をお願いいたします。

平成29年度「特定非営利活動に係る」活動計算書
平成29年4月1日～平成30年3月31日まで

単位:円

科 目	前期決算	当期決算	備 考
(資金収支の部)			
I 経常収入の部			
1 会費・入会金収入	260,000	220,000	会員の年会費
1) 正会員会費収入	260,000	220,000	
2 事業収入	6,280,000	12,224,414	ボランティア参加費
1) ボランティア派遣事業	6,280,000	12,224,414	
3 補助金等収入	2,825,818		
1) 受取助成金	2,807,000		前期は「手を貸す運動Ⅱ」の寄付金
2) 受取補助金	18,818		グッドウ
4 寄付金収入	3,955,486	6,236,486	
1) 寄付金収入	3,955,486	6,236,486	「手を貸す運動Ⅱ」の寄附金科目変更
5 雑収入	14,849	23,255	
1) 受取利息	121	48	銀行利息
2) 雑収入	14,728	23,207	
経常収入合計	13,336,153	18,704,155	
II 経常支出の部			
1 事業費	6,523,931	15,901,041	
1) 学校建設事業	3,014,954	12,038,343	
2) 栄養障害児救済事業	3,508,977	3,862,698	
2 管理費	2,086,501	2,140,090	
1) 会議費	224,305	314,348	会議用飲食等
2) 旅費交通費	844,177	530,116	航空運賃等
3) 通信運搬費	161,602	142,685	郵送料等
4) 消耗什器備品費	35,698	106,742	
5) 消耗品費	427,446	633,100	事務用消耗品等
6) 賃借料	312,300	309,108	駐車料他
7) 諸会費	6,000	14,560	
8) 租税公課	3,470		収入印紙等
9) 雑費	71,503	89,431	振込手数料等
経常支出合計	8,610,432	18,041,131	
経常収支差額	4,725,721	663,024	
III 経常外収益			
経常外収益計			
IV 経常外費用			
1) 過年度損益修正損			
経常外費用計			
当期収支差額	4,725,721	663,024	
前期繰越額	7,057,524	11,783,245	
次期繰越収支差額	11,783,245	12,446,269	

【コメント】

今期より「手を貸す運動Ⅱ」様の助成金を当局の指導により寄付金処理にしました。今期はボランティア参加者が、前期に比べ増加し、またスタディツアー（栄養障害児救済事業）も多くの参加者があり、ボランティア参加収入が大幅に増加し、良好な決算となりました。
 （財務担当理事 寺尾）

活動予定

- 7月
- ・豊田スタジアムで交流会&バザー
東海3県に在住のブラジル・ペルー・フィリピン・ベトナムなど約3000人
 - ・カトリック平針教会で募金活動
 - ・カトリック南山教会 活動報告と募金
 - ・パンディ小学校竣工式 シーランド名誉理事長・藤井理事長出席
- 8月
- ・スタディツアー（栄養障害児救済事業） 研修会
- 9月
- ・スタディツアー（9月2日～9日）
- 9月2日
- ・地球愛祭りin愛知
- 9月末
- ・スタディツアー帰国反省会
- 10月末
- ・学校建設ボランティア募集締め切り
- 11月
- ・フィリピン・ボランティア参加者交流会 11月23日
- 11月
- ・ワールドコラボフェスタ 11月10～11日
- 11月～1月
- ・学校建設ボランティア事前研修会3回
11月17日 12月22日 1月19日
- 12月
- ・南山大学チャリティバザー
- 2019年2月
- ・学校建設ボランティア活動



ボランティア募集の説明会
先輩から応募学生に体験説明の場

わたしの海外初体験 「RASAの体験を人生に生かしたい！」

南山大学2年 櫻井 隆裕

私は今年2月4日から21日にかけてRASA-Japanの「学校建設ボランティア」に参加しました。海外に行ったことがなかったので、「せっかく大学生になったし、海外に行ってみたいな」という簡単な気持ちで応募しました。

実際に行って、15日間ホーム・ステイして、現地の人に触れて、一人ずつ一家族の一人となって暮らして、フィリピンだけでしかできないたくさんを知ること、体験することができました。

そして、ホーム・ステイ先の家族をはじめとして、フィリピンが大好きになりました。

初日、空港からバスで現地に向かっている最中、最初はずっとワクワクしていました。しかし、目的地に近づくにつれてだんだん不安になっていったことを覚えています。

私は、英語が話せないのも、うまく仲良くなれるのかなとか、そもそも歓迎されているのかなとかいろいろ考えていました。しかし、現地に到着した瞬間にそんな考えは無駄だったことがわかりました。

現地の人々がホスト・ファミリーはもちろん、地域の人たち殆どが大歓声を上げて日が暮れかかった時間のバスを出迎えてくれたからです。ホスト・ファミリーもとても温かく迎えてくれました。

心配性のホストのお母さんはずっと私のことを気にかけてくれて、お父さんはとにかく優しくいろいろ連れてってくれたし、夜遅く出かけてたら、お母さん一緒に締め出されたのも今ではいい思い出です。

14歳のJMは、友達みたいいろいろな遊びました。ペンペンは甘えん坊のシャイボーイと一緒に毎日学校に行ったり、遊んだりすごく可愛かったです。近所のおばちゃんたちは、見かけたら話しかけてくれて本当にあったかい人たちばかりでした。近所の若者たちは一緒にカラオケしたりバスケットしたり、ちょっと夜更かししたり、とにかく大事な友達になりました。よそ者の私にたくさん関わってくれて、こっちが人として大切なことを学びました。

たった15日間のホーム・ステイでしたが、みんな別れるときに泣いてくれて、私も単なる別れの悲しさではなく、なぜだか拭いても、拭いても出てくる涙に大声を出して泣きたい気持ちになりました。

これを書いている今もみんなに会いたくて仕方がないです。

しかし、一方でフィリピンに行ったことで、貧困の現実を感じた事もまた事実です。

一番衝撃的な体験として記憶に残っているのは、首都マニラに滞在中ストリート・チルドレンにお金をせがまれたことです。ボロボロの服を着た子供たちに、体をつかまれ、せがまれたとき私はどうしたらよいかわかりませんでした。

今回の活動でフィリピンに行ったら私は大きく成長できたと思います。また、たくさんの現実を知ることができました。これからの人生にこれらを生かしていきたいです。

読者・支援者の声

会費、寄附金の振込用紙に記入していただいている応援のコメントをまとめました。中には確認の電話を差し上げた方もあります。ありがとうございました。

◆私は時々、ボランティア活動に参加した学生さんたちの集まりに顔を出す機会がありました。彼らは実にしっかりした考えをもって自己分析しているのには感激しました。

このような学生たちをここまで指導しておられるRASAの役員の方たちに対して感謝以外の何物もありません。私は、自分の体力から活動的な支援ができません。その代わりに、少しでもお役に立てばと思い寄附金で支援してゆきます。1人でも多くの若者たちが社会に出たら正義感をもって世のため、人のために活躍することを願っています。
(愛知県 M・Kさん)

◆RASAさんが「学校建設を開始して20年」と聞き「へー」と驚き、さらにその間一度も中断せず、やがて30校目も目前と聞きさらに驚きと共に嬉しくなりました。毎回の「ニュース・レター」が届くのを楽しみにしている一人です。私は、長崎の被爆者です。この20年間にはキット苦しいこともあったことと思います。それでも継続してこられたご努力に自分の被ばく体験を通して相通じるものを感じます。今後のご活躍をお祈りいたします。
(長崎市 I・Tさん)

◆学校建設20年ですか。よく続けてこられましたね。ご苦労が多かったことでしょう。心から感謝いたします。何事も始めることは簡単ですが、継続する難しさと思うとフィリピンという外国での事業であるだけに頭が下がります。とてもできることはありません。お体を大切に頑張ってください。
(神奈川県 A・Sさん)

◆私は市民税非課税者です。やっと僅かですが寄付ができる身分になってうれしさを実感しています。ますますの活躍をお祈りいたします。
(愛知県 T・Fさん)

◆RASA-Japanが認定NPO法人に認定され、寄付金の税制優遇が受けられることは、とてもメリットありますよね。日頃は、お役に立てていないのに嬉しくなり、顔がほころびます。
(名古屋市 T・Tさん)

◆学校建設20周年おめでとうございます!! 継続支援させていただきます。ボールペンは大切にします。とても使いやすいです。
(名古屋市 M・Tさん)

◆僕が弱い立場の人たちを支援するようになった原点は、2004年にRASAの学校建設に参加したことにあります。もっと給料が多いところを家内は希望していますが、社会奉仕活動は奥が深い上、知れば知るほど手が抜けません。そのうち、RASAさんの手助けができれば最高です。
(神奈川県 U・Tさん)

◆長い間、本当にご苦労様です。ボールペンありがとうございます。初めは、大切な支援金を使われたことに疑問を持ちました。でも、値段をお聞きしてびっくり。＜百均＞並みのお値段にしてあの使いやすさ。しかも中国製ではなくアメリカ製のネーム入り！疑問が、賛美に変わりました。
(岐阜県 A・Nさん)

◆我が家の問題娘をよくぞ、しかも短期間でしつけていただきました。フィリピンから帰って人間が全く変わったのに驚いています。今は無事に卒業、就職、しかも超一流の商社に高峰の花とっていましたが合格しました。お礼の言葉がありません。
(常滑市 K・Uさん)

◆毎回内容の濃いニュース・レターを読ませていただいております。陰ながら応援しています。
(東京都 Y・Sさん)

◆病院通いの高齢者です。少額ですが心を込めて献金いたします。お役に立てるのか気になりますがご活躍に頭が下がります。
(名古屋市 T・Fさん)

◆私の会社では、社会貢献活動に寄与している個人や団体を支援しています。従業員に支給される給与の端数金額を寄付していただき、それを基金にして助成しているのです。今年は、団体の部にRASAを推薦したいと思っています。審査に必要な資料提供をよろしくお願いいたします。私も個人的に陰ながら支援させていただきます。
(名古屋市 M・Yさん)



賛助会員制度が発足しました！

第9回定期総会で、定款変更が承認され賛助会員制度が発足いたしました。
ここで賛助会員について簡単にご説明いたします。

現在の会員は、RASA の活動方針に賛同された方が支援したいと思い、入会申込書を提出され、年会費5,000円を納め正会員になられています。正会員は年次総会に出席して、付議された議題に対し意見を述べる権限が与えられています。そして議題の採決に当たって、表決権の行使が認められています。

しかし現実には、年次総会に出席される方は数少ないのが実態です。そして、参加されない方の殆どが表決の権利を議長に一任されています。総会当日は他の行事と日程が重なったりして委任状による出席とされる方や、RASA の活動はよく理解されており、すべての運営を理事の方々に一任されておられる方など様々です。

RASA の強み

RASAには「認定NPO法人」の資格が与えられました。『会員ではあるが表決権は』とされている会員の方のために新しい制度の「賛助会員」制が有効となります。そのメリットは

- (1) 表決権はないが、RASAの会員としての帰属感が持てる。
- (2) 年会費5,000円は会費ではありますが寄付金扱いもでき、RASA が発行する「寄附金受領証明書」を医療費控除等と同様に確定申告による税金還付の恩恵に浴します。(RASAは認定NPOだから)
- (3) 年次総会の資料は従来どおり送付されます。しかし、表決権がないため委任状提出義務はなくなります。

普通銀行からのお振込み

振込先	三菱東京UFJ銀行	ゆうちょ銀行
支店名	平針095	二ー八 (ニイイチハチ)
口座 種別番号	普通 0037025	普通 12120-35666151
受取人名	特定非営利活動法人 RASA-Japan	トクヒ) ラサージャパン

会費（年会費）

正会員	5,000円
賛助会員	5,000円

ゆうちょ銀行からのお振替

【振替口座】ゆうちょ銀行
00890-4-31185
【振込名義】
特定非営利活動法人RASA-Japan

編集後記

ニュースレター28号をお届けします。第9回定時総会が無事に終了したのも束の間、今年度の事業計画の遂行に向けスタッフ一同慌ただしい日々を送っております。いつもこの時期に思う事ですが、毎年、事業計画を着実に実行できるのは、ひとえにRASAの活動にご支援をいただいている皆様のおかげでと深く感謝し、ご期待に添えるよう気持ちを込めて今年度のスタートを切っております。このレターが届くころには梅雨が明け暑い夏を迎えていると思いますが、皆様方におかれましては酷暑に負けぬようご自愛ください。

(理事 本田)